

山形県「未来に伝える山形の宝」事業

= うつくしい

第3号

うづぐすえ

平成28年 11月

発行：東北文教大学 地域連携

ボランティアセンター

東北文教大学・南山形地区創生プロジェクト委員会



復活



谷
柏
田
植
踊

東北文教大学・南山形地区創生プロジェクト

5つの実践プラン進捗状況（11月末現在）

1	「2万年の歩みを刻む南山形を知る・楽しむ」活動	→	コース巡回・検討中
2	「南山形地区ガイドマップ」作成・出版活動	→	コース巡回・マップ考案中
3	DVD「南山形地区物語(仮称)」作成・上映活動	→	文化編DVDを作成中
4	南山形地区再発見の「講座」開設	→	全5講座終了
5	「谷柏田植踊」(中断中)の復活・継承活動	→	演目「お正月」の復活(下記詳細)

地域創生に向けて着々と各プロジェクトが動いています。今回「うづぐすえ」第3号では、南山形地区の伝統芸能である「谷柏田植踊」の復活を実現した実践プラン5の特集を組みました。そして、最終ページには全講座を終えた実践プラン4の各講座の内容について写真と共に掲載しました。今後とも各実践プランの進捗状況に応じて皆様に情報をお伝えできればと思っております。

実践プラン5 「谷柏田植踊」（20数年中断中）の復活・継承運動

★復活！「谷柏田植踊」特集★

学生の若い力と地域の方々の暖かいバックアップで見事復活！！

平成28年10月9日（月）東北文教大学祭にて、「谷柏田植踊」が初披露されました。当日は雨の予定でしたが、天候にも恵まれ野外で実演を行うことができました。野外に高鳴る寄せ太鼓の音に惹きつけられ、地域の方々をはじめ、多くの学生・教職員が足を運んでくださいました。また、報道関係者も多く、後日テレビや新聞に大きく取り上げられました。そして、その後も10月15日には「村山民俗学会」のレセプションパーティーや、同月30日には南山形地区の文化祭で実演等、復活後間もなく、多くの披露の場をいただき、大変に嬉しく思います。

本プロジェクトを通して地域の方々、教職員、学生と世代を超えてかわり合い、南山形地区の歴史と文化を学ぶ、大変貴重な機会となりました。また、今回は「お正月」のみの披露となりましたが、今後もその他演目の復活・継承に向けて進んで参ります。



❀「谷柏田植踊」について❀

田植踊りとは、豊作を願い小正月に奉納する伝統行事であり、「谷柏田植踊」は江戸時代後期（推定）から山形市谷柏地区で踊られていました。もとの演じ手は男性であったそうですが、戦争などの影響で女性が演じるようになったそうです。そして、高齢化と後継者不足により、これまで約20年ほど中断していました。以下は、昭和56・57年の谷柏田植踊保存会の貴重な写真です。



..... 役 の ご 紹 介

踊り手は、掛け声や口上を織り交ぜながら前方で力強く舞う、「中太鼓」・「源内棒」（写真①）と、田植えの動きを表現し、後方で踊る、「早乙女」（写真②）です。それから、演目の前に行われる寄せ太鼓（写真③）と、演目「お正月」の伴奏および演目間に太鼓をご披露して下さった陰太鼓の方々（写真④）、「お正月」を歌って下さった歌い手（写真⑤）の方々です。

1本のVHSビデオから各自練習ができるようにDVDに変換していただき、映像から見よう見まねで振りを起こしたり、歌を楽譜に起こしていただいたり、着付けや所作を学んだり、協力委員や地元の方々に温かくサポートしていただきながら練習を積み重ねました。お力添えをいただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。



①中太鼓(1名)・源内棒(2名)



②早乙女(5名)



③寄せ太鼓(4名)



④陰太鼓(3名)



⑤歌い手(5名)

実践プラン4 南山形地区再発見の「講座」開設

—全5講座が終了しました—

お陰様で予定しておりました5講座全てが終了し、合計で244名と非常に多くの方々に受講いただきました。足を運びいただきました皆様、そして講演いただきました講師の方々、誠にありがとうございました。今まで知られていなかった事も多くあり、南山形地区の歴史や文化を再発見する貴重な機会になったのではないかと思います。



第3回「氷河期の埋没林」 山野井 徹 氏（山形大学名誉教授）

今年度の講座の中では唯一の現地学習ということで、南山形コミセンを離れて大型バスに乗って仙台市まで足を運ぶ研修会となりました。最初は、谷柏にある「氷河期の埋没林」を見学、その成立過程やこれからのことなど、山野井先生の詳細なご説明をいただきました。その後、高速道路を仙台市に向かって走り、途中昼食をはさんで、午後1時頃に公益財団法人「地底の森ミュージアム」に到着しました。別名「仙台市富沢遺跡保存館」ともいうようです。その名のとおり、旧石器人の狩猟・採集生活の舞台となった約2万年前の氷河期の森林遺跡で、発掘された状態で保存・展示されていました。その広さには圧倒されました。基本的に谷柏の氷河期の埋没林と同様の遺跡と考えられます。



谷柏の埋没林の保存のあり方について、今後南山形地区全体で考えていかなければならない大きな課題だと感じて帰ってきました。天候にも恵まれ、大変楽しく有意義な一日となりました。

第4回「羽州街道の歴史」 片桐 繁雄 氏（郷土史研究家）



片桐先生は、羽州街道を行き来した江戸時代の文人等が残した記録や作品の紹介、明治に入ってから街道を整備したり隧道(すいどう)を掘ったりした歴史などを通じて、羽州街道のソフトとハードの両面から取り上げて、その役割をお話下さいました。たとえば、羽州街道を通った人々の記録として、秋田藩の家老「梅津政景日記」や高山彦九郎の「北行日記」などを提示、「お国替え絵巻」では、須川にかかる坂巻橋の図を通して当時の羽州街道を行く旅人たちの姿をわかりやすく説明して下さいました。明治に入ってから、隧道を掘った山形県初代県令である三島通庸の話題や、明治16年に青山延寿が刻んだ上山新道碑などに触れていただき、羽州街道の多面的役割が理解できました。

第5回「南山形地区の民俗」 佐藤 晃 氏（東北文教大学短期大学部教授）

佐藤先生は、大学の授業の一環として、学生とともに地域の方々を訪ねて民俗調査を行っております。本講座ではその調査研究の成果の一部をお話して下さいました。調査では、南山形地区には、じつに豊かな民俗の記憶が残されていることがわかったということです。たとえば、結婚式の儀礼では、ムカサリ行列が行われており、モロヤ衆という一群もありました。モロヤ衆というのは、ムカサリ行列と一緒にいく家族や親族のことをさしていたようです。また、三三九度の杯の際のオナツボの経験を持つ方がおられ、記憶を語ってくださったということです。オナツボとは、三三九度の盃にお酒を注ぐ役目の稚児(男児・女児)のことで、一般にいう雄蝶・雌蝶のこのようです。このほかにも、地域の方々に多くの生活風習、民俗について語っていただきましたが、このたびの講座ではそれらをまとめてご報告いただき、大変おもしろくまた参考になりました。



今回も「うづぐすえ」第3号をご覧いただきありがとうございました。また、この度本プロジェクトのHPを作成いたしましたので、PCやスマートフォンからも閲覧することが可能となりました。下記のURLからどうぞご覧下さい。

URL : <http://uzugusue.netj.jp/>

●事務局連絡先

〒990-2316 山形県山形市片谷地515
東北文教大学・南山形地区創生プロジェクト委員会
東北文教大学「未来に伝える山形の宝」事務局
TEL : 023-688-2298